

スペイン カキのシーズン終盤の供給が減少の予想

[FreshPlaza](#) 2024年12月5日

「暴風雨と洪水のため、シーズン終盤のカキの供給が減少すると予想している」

10月29日にスペイン東部を襲った激しい嵐は、バレンシア州に莫大な経済的損失をもたらし、カキの出荷シーズンはこの破壊的な気象現象によって最も影響を受けた。

バレンシア州の企業であるモロンド社のフェルナンド・マルティ氏は、「残念ながら、バレンシア州のカキ生産の大部分を担うラリベラ地域は、60~80%の損失という最も深刻な影響を受けており、これは11月中を通してカキの価格に影響を与えた。しかし、嵐は生産量の減少を引き起こしただけでなく、果実をより厳格に選別する必要があるため、収穫と選別に余分なコストを生み出していることも考慮に入れる必要がある」と言う。(以下「」は同氏の話)

「このため、11月のカキの市場価格は例年のように下がっておらず、12月の最後の2週間には価格が上昇すると予想される。」

「弊社の場合、カキの専門業者として、バレンシア州内の数カ所に生産が分散しているため、嵐の影響は限定的であり、12月から1月にかけてロホブリランテ品種のカキを取引先に提供できることを保証する。しかし、生産量が大幅に減少したため、ほとんどの業者は出荷シーズンが例年よりも早く終了すると予想している。」

「実際、11月の引き合いが非常に好調であり、一部の輸出業者が品不足のために12月中旬に出荷を終える可能性が高いことを考えると、今後数週間もまだ引き合いが強いだらう。」

当局が発表したデータは、バレンシア州を襲った嵐の並外れた強さを明らかにしている。実際、トゥリスの町の近くにある気象観測所では、わずか1時間で185ミリの雨が記録され、これはスペイン国家気象局により集中豪雨と定義されている60ミリの3倍であった。この数字は6時間で621ミリに達した。

「今シーズンの果樹作がひどく影響を受けたことには注意する必要があり、確かに一部の果樹園では樹体が被害を受けたが、それは例外的である。そのため、今シーズンの被害は主に非常に限定された地域の生産に影響を与えており、何か特別なことが起こらない限り、来シーズンは平常に戻るはずであることを市場に伝えることが重要だと考えている。」

「不幸な嵐にもかかわらず、当面の間、弊社では主力商品であるカキの事業を続ける。弊社では何年もの間、バレンシア州産のカキをヨーロッパや海外の消費者に届け、その消費を促進してきた。それらの消費者には、1月末までカキが出荷できることを知ってもらいたい。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)